



9月

# パストラル尼崎

長月

No.147, 2024 (R6) 年8月25日

〔編集・発行〕

パストラル尼崎  
尼崎市潮江1丁目10-2  
Tel. 06-6493-0521  
Fax. 06-6493-0301  
発行責任者: 竹田 恵之

## ◆9月の歳時記◆

### 『第1回 直木賞・芥川賞』



昭和10年9月1日、第1回の『芥川賞・直木賞』が発表されています。その時の受賞者は、『芥川賞』石川達三(蒼氓)、『直木賞』川口松太郎(鶴八鶴次郎)(風流深川唄)でした。これ以来、芥川賞は無名・新人の純文学作品に、直木賞は新人・中堅の大衆小説に授与されることになりました。

この賞のきっかけは、文藝春秋社の創業者でもある作家の菊池寛が、『文芸春秋』に数多く寄稿し、『南国太平記』で流行作家となっていた友人の直木三十五が34年に死去した事と併せて、『文芸春秋』創刊号から巻頭随筆を書き、27年に自ら命を絶った盟友・芥川龍之介を思い、両氏の名を記念するため創設されました。

今でこそ、発表時期になるとメディアにも盛んに取り上げられ話題になる『芥川賞・直木賞』ですが、第1回の発表の際には、「多くの新聞社を招待したにも関わらず1行も書いてくれなかった」と菊池が憤慨した程、その注目度は小さかったようです。

けれど文壇では両賞の重要性は認識されていたようで、あの太宰治が、第1回芥川賞に落選した際、選考委員の川端康成宛に激しい抗議文を出したり、佐藤春夫に「第二回の芥川賞は、私に下さいまするやう、伏して懇願申しあげます」という手紙を送ったりするなど文壇史に残るドロドロしたエピソードが残っています。

その後も、第31回芥川賞受賞の吉行淳之介は、「社会的話題にはならず、受賞者がにわかに忙しくなることはなかった」、第33回芥川賞受賞の遠藤周作も、「授賞式も新聞関係と文藝春秋社内の人間が10人ほど集まるだけのごく小規模なものだった」と書き残しています。

そんな状況が、昭和30年の第34回から一変します。一橋大学在学中の石原慎太郎が『太陽の季節』で芥川賞を受賞。無軌道な若者たちを描いた同作は大ヒット、「太陽族」と呼ばれる若者たちが現れ、慎太郎刈りが大流行、さらに映画化作品に出演した慎太郎の弟、裕次郎はたちまち大スターに！一大ブームを巻き起こしたことで、芥川賞・直木賞への注目度は一気に高まってきました。

ちなみに受賞するまでにノミネートされた回数、池波正太郎、宮部みゆき、東野圭吾らは6回目、白石一郎、阿部牧郎は8回目にノミネートで直木賞を受賞。過去最高記録の古川薫は、なんと10回目に直木賞作家となっています。彗星の如く現れ受賞する方がいる反面、あの売れっ子作家の東野圭吾すら6回目の受賞とは・・・過酷ですね。

## ～尼崎珍百景～

### 『シャレコーベ・ミュージアム』

尼崎の2号線沿いにある『シャレコーベ・ミュージアム』をご存知ですか？ この施設、子ども騙しではなく、元関西医科大学教授が何千点もコツコツと本物の頭蓋骨を集め開設した大真面目の私設博物館なんです。建物外観もドクロ！（そういえば、その奇異な外観にギョッとしたことが・・・）特注の車までドクロ。通勤や奥様も乗せていたそうで、そのナンバープレートもドクロ（10-96）。その拘りや半端ないのです。汗 ドクロは最初、大学に置いていたそうですが、お子さんが独立後、徐々に増え、あまりの買っぴりにクレジットカードを取り上げられたのだとか。最初のきっかけは、学会のあったサンフランシスコで入手した本物の頭蓋骨。しかしその後、家族が様々な不幸に見舞われ、奥様から言われお祓いに行った際に、本人も廃車になる程の事故に。汗 そんな破天荒な教授ですが、5年前、志半ば75歳で逝去。泣 今まで家族に迷惑をかけていたはずで、いよいよ頭骸骨たちも「散骨」の運命か？と思いきや、娘さんがお父様の意志を継いで館長を務めておられるようです。一度、足を運んでみては・・・（尼崎市浜田町5-49）

## 令和6年度

### パストラルシニア大学

今年度も多彩な講師をお迎えし、充実した内容でお届けしています。講師陣からその受講姿勢を絶賛されていた皆さま。今年度も是非ご参加下さい。

\* 毎回フロントにお申込み下さい(席に限りがあります)

\* 当日は、学生証も忘れずに！

### 第4回

#### 第1部:「睡眠のおはなし」

#### 第2部:寝具の体験会(特別企画)

・日時:9月20日(金)14時～

講師:西川文化財団&西川株



高齢者にとって悩みの多い不眠。今回はその睡眠のお話とともに西川株から特別に寝具の体験会も実施致します。是非、この機会に！